

武雄市議会だより

栄八通信

第 33 号

14710 月末発行



武雄市議会議員

宮本 栄八
TEL・FAX 23-0750
携帯 090-5083-0793

新春企画

武雄市最後の大型

社会基盤整備

下水道問題を考える

目標 使用料金の統一と低減 未整備地区の早期水洗化

公共下水道 180円

農業集落排水 150円

150円に統一を

不公平に、市の偽装あり！

今12月議会で、私が一番納得が
できなかったのが、農業集落排水
の新料金の問題です。

市は、昨年、武雄市行政問題審
議会に、農排（農村部の汚水処理
で農水省所管）と公共下水道（市
街地の汚水処理で国交省所管）の
いわゆる、下水道料金について、
新市での料金設定について諮問し
ました。

その時、市の基本方針は、市民
の使用料金負担は、事業が、持続

可能な金額を前提にして、施設の
維持管理費の分をいただく方針。
資料には、10ページに渡り、そ
の計算根拠が示され、最後に結論
が整理されている。忠実を期す為
に、その全文をそのまま転記する。

公共下水道使用料と農業集落排水
使用料の設定について

公共下水道と農業集落排水が異
なった料金系となれば、受益者は
異なった負担を負うことになり、
相互に不公平感が生ずることにな

る。
したがって、使用料体系につい
ては公共下水道と農業集落排水の
維持管理費の総和にかかる処理原
価（226円/㎡）で基本料金及
び超過料金を設定する。

以上となっていて、それを受け
て審議会も、公共下水道及び農排
の使用料金の統一の方針に賛同し
た。

ただ、226円では県内一とな
ることや、加入促進の為に、18
0円を提案してあった。

さらに、今後、合併浄化槽の管理
費も同じになるよう注文もあって
いた。

公共下水道料金を 11月に180円に決定

一方、12月に、公共下水道の川
端地区が共用開始することから、
11月の臨時議会で、使用料金を議
決する事となったが、議案提案は、
公共下水道だけで、農排は、なかつ
た。

公共下水道は、審議会の答申ど
おりの使用料金で1㎡当り180
円が提案され議決した。

農業集落排水料金 12月に150円に決定

一方、今12月議案に提案された
農業集落排水の使用料金は、なぜ
か1㎡当り150円で、公共と農
排の料金統一と市は言っていたが、
急変していたことに驚いた。

これまでの市の方針とまったく
矛盾する提案で、私は反対した。
ただ、私が、こういう事態を、

まったく想定できなかったわけ
ではなく、ずっと心配をしていた。
それは、11月の全議員での公共
下水道の特別委員会の時に、山内
町や北方町のすでに農排が広く整
備された地区の一部の議員が、公
共下水道との統一の180円での
料金設定では現在より値上りする
として、賛成できない様な言動を
されていた。

しかし、委員会の休憩中に市執
行部と何らかの話があったのか、
休憩後は、数分前とは人が変わった
様に、公共下水道料金の180円
案に賛成されて可決した。

ここで、問題なのは、市の優柔
不断で、場当たり的対応である。
市の方針の柱は、①持続可能な
使用料設定 ②公平平等な料金設
定だと思いが、今回2つとも順守
していない。

そこで、百歩譲って、私の意見
を言うならば、農排が1㎡150
円でしか可決できないとするなら
ば、農排が、150円の間は、公
共下水道も150円で行くべきで
ないのか。後出しジャンケン
のような、こすした決め方では、今
後下水道を次々に整備する、予定
地区の方から不満が噴出する
のではないかと懸念する。

一方、事実、不公平な議決と思
うが、それが現実なので、今後、
公共下水道の使用料金を、農排と
同じ1㎡当り150円に、下げる
よう市に求めて行くことを、新年
の課題としたい。



下水配管を付設中の温泉新道
今後、蓬萊町→宮野町→中町へ



30年後の全体予想図で、今回西側の1系列のみが完成
し、今後配管をH22年までに整備するが、現在1,300人
と農排規模しかない。

水道料金20円/1㎡値下げ 素直に喜べない理由

10億円の未返換

今12月議会で、水道料金の値下
げ条例が可決した。

ただ、実施は、H20年4月分の
検針からで、5月支払分から安
くなる。具体的には、標準家庭の月
20㎡使用で計算すると、現在一番
高い旧武雄市と比べ、月額1、1
23円、年間1万3、476円安
くなる。

市は、行政問題審議会に、1㎡
当り、現行310円に対し、①3
10円、②300円、③290円
の3つの値下げ案を提案した。

私が傍聴しての感じとしては、
市は中間の②案300円を期待し
ているようだったが、委員の方は
それを知りつつも、あえて、一番
安い③290円を選択された。

一般的に、審議会等は、市の方
針を追認するのが、結構が多いが、
今回市に一層の努力を求める29
0円案を選択の発表された時、私
は勇気あるなど感動した。

また、委員には、経済人も多く
10数億円の利益積立金をもって

る一般企業はないとか、積立が多
額なのに、日本一高いのは、市民
ユーザーから見てもおかしいとの声
もあっていった。

ところで、私が、この水道料金
値下げで、素直に喜べない理由は、
この値下げは、市長の具約だが市
長が、経営改善して利益を上げて
値下げしたのではない。

旧武雄市が、古庄市長時代を中
心に、約15億円積んだ利益積立金
を取りくずして値下げするもの。

以前にも述べたが、290円の
値下げでは、利益積立金15億円の
3分の1の5億円を10年間で使用
する計画。

しかし、この15億円は、旧武雄
市が10年間で積立てたもので、そ
の理由も、国の高料金対策の交付
金がなくならないから、また、西部
広域水道加入で急激な変化を防ぐた
めとして、値上げした。結果的に
は、高料金対策交付金は廃止され
ず、また西部広水も、1㎡150
円予定が、現実84円であり、見
方では、市民はだまされたかっ
う、いわゆる偽装で積み上がった
積立金であった。

だから私は、基本的に、10年
で積立てた金は、10年で全額返すべ
きと思っている。

ところで、以前は、古庄市長も
利益積立金を返す様な話もあり、
額が明確でなかったのが現金とし
て保有していたが、今回、約15億
円の利益積立金の、5億円しか使
わないのが確定して、残り10億円
を10年寝かせる事になるので、物
価が上って目減りも考えられる。

そこで、市民からのあずかり金
的な要素もあり、確実な国債など
を買って保有する事を提案したが、
市も、同様の考えで検討中との話。

高架鉄道	
JR佐世保線武雄温泉駅 付近連続立体交差事業	
武雄北部 土地区画整理事業	
84億円 市費 (33億円)	130億円 市費 (15億円)

鉄道高架切替H20年2月17日を 前にこれまでに30年を振り返る

事業採択までの10年
工事着工までの10年
苦悩と対立と希望

鉄道高架切替を前に

今2月に、いよいよ武雄駅周辺の鉄道線路が高架に切り替わり、記念式典が行なわれる。

若い人や、合併した北方・山内の方は、約214億円と20年かけて事業が決定し、今日を迎えたのか、ご存知でない方も多いと思うので、経過をお知らせします。

昭和53年佐世保線の高架による立体交差化を議決してある。

たぶん、そのころ、商店街に対して日祐などのスーパーが進出し、既存の、市街地に買い物に来やすくする為に、踏切をなくして、風通しを良くするとの計画。

昭和57年には、各種団体による国鉄佐世保線高架期成会が作られ、当時若手事業者の多かった武雄青年会議所が事務局を受け、市内各戸から100円を集め活動するなど活発化。

昭和57・58年、市は、高架・区画整理事業の調査に入った。

昭和61年には、62年度事業として、国の採択を受けた。

いよいよ着工と思ったが、色々問題が出て来て停止した。それは次の3つが主な理由と思う。①昭

た。
そこで、私は、結論を一刻も早く出す事が、最大の商業政策として行動していた。

私も、当時レンタル店の自営業者で青年会議所(JC)に、後に入会したが、その時、市が動かないので、事務局としても一歩も動けない状況。

そこで、理事長に事務局を返納し、インパクトを与えましようとの数回提案し、当時期成会長の山崎静雄氏が商工会議所会頭だったので、その後、そこが事務局となり組織的な動きともなった。

平成7年市議になってからは、この問題と、温泉新館の再建問題を中心に取り組んでいた。

しかし、功労者は元重松彰議員で、与党のくせ言い過ぎと批判されながらも続けて質問をされていた事も少なからず影響あったと思う。すぐできなくても言い続ける

ことが議員の大切な仕事とも感じた。当時の石井市長は、商業者自身が、もっと燃えて再開発計画を出さないと大きな決断はできないとか、「身のたけに合った計画」でなければ、と慎重姿勢。

ただ、元石井市長も、もしもの着工にそなえたと思えるのが下水道整備手法で「武雄市は、六角川の上流に位置し、きれいな水を流す責任がある。」として、基準が20PPMの公共下水道をせず、10PPMの三次処理合併浄化槽に10万円の補助を上乗せし、市内に広げる方針を打ち出している。

私の見方では、高架区画事業と公共下水道を同時にやれないと見ての、苦肉の策と考える。

実際、合併前の武雄市と鹿島市は3万5千人同規模で、着工後の投資的経費約3億円を、武雄は、高架区画に鹿島市は、公共下水道に利用している所からも合点がいく。

昭和53 佐世保線の高架化決議
昭和57 高架期成会の発会
市A調査(大まか)
市B調査(くわしい)
昭和59 国62年度事業採択
昭和61 長崎新幹線ルート公表
昭和62 国鉄JRに民営化
昭和63 長崎ルート井本案
昭和64 議会に北部市街地調査特別委員会組織
昭和65 区画縮小8ha(原田案)出る
昭和66 都市計画事業決定
昭和67 松原ファサード完成
昭和68 高架本体工事着手
昭和69 鉄道線路高架切替

昭和53 佐世保線の高架化決議
昭和57 高架期成会の発会
市A調査(大まか)
市B調査(くわしい)
昭和59 国62年度事業採択
昭和61 長崎新幹線ルート公表
昭和62 国鉄JRに民営化
昭和63 長崎ルート井本案
昭和64 議会に北部市街地調査特別委員会組織
昭和65 区画縮小8ha(原田案)出る
昭和66 都市計画事業決定
昭和67 松原ファサード完成
昭和68 高架本体工事着手
昭和69 鉄道線路高架切替

大転換 原田部長8ha案で前進

H9年に、1人の人物により、情勢が大転換する。建設省より県の土木部に向向していた原田部長である。当時、有能な部長が来たとの話もあり、議員がそろって、高架問題の相談に行った。

その当時、開口一番、武雄は観光地としてなっていない。とか、公共下水道も進めていないとか、いきなり数分間罵倒。

議員の多くは、あまりに非礼として、反発、後日謝罪を求めるベキとの発言の議員もいた。

私は、部長の指摘は当たっているし、建設省出身なのに、水洗化は、公共下水道でなく(厚生省の)合併浄化槽でも良い。要は着実にやるかの問題との発言に、ある意味すばらしいと思っていた。

その原田部長が出した解決策が、区画整理を2期に分け、1期は、鉄道高架事業推進に必要な、8.9ha(後で9ha)だけの縮小案だった。

最終決断の理由

平成10年の、武雄市の都市計画事業決定で、正式な着手となる。そこで、最終的な判断が必要で、いくつかの問題もあった。

①縮小案で財政的な負担は軽減されるが、今度は、あまり時間がかりすぎたので、この高架区画では、郊外の大規模スーパーにもは対抗できず、効果は少ないのではないかと意見。

これに対し、石井市長は、「商業そのものの効果は薄くても、区画整理による、新規建替等で、相当の経済効果はある。」との答弁であった。

②もう一つ心配されたのが、市街地に多額を使うため、周辺部からの反発も考えられたが、周辺部の議員さんからは、建前かもしれないが、基本的道路は整備されてい

るので、今度は中心部で使って良いのではと反対はあまりなかった。

③反対運動が、具体的にあったのが、川端の飲食店で、以前にもなかった所に、自力で飲食街ぼんぼり通を作りようやく活気が出た所で、高架橋の影になりイメージが悪くなる。また、当時、市職員駐車場に、飲食ビルを作り入居する案があり、それに対する疑問もあった。ただ、その時、会合を

重ね、各地を研究し、各店バラバラの対応が、対立や疲弊を生む事例から、反対も統一され、条件などをつめて、統一して賛成された。その効果が、現在の川端の高架下の整備に繋がった。

私の判断

私が、事業に最終的に賛成した理由は、武雄市が、温泉観光地である以上、商業地の場所が、時代で変化しても、温泉の場所は変えられないので、北部への導入路の整備は、いづれやらなければならない事。

ただ、当時、高架をせずとも、郵便局からの導入路や、市役所前の踏切りを拡張し、大型バスが入りやすくすれば良いとの意見も多かった。まずそれが検討されたが、県は、国の高架区画の採択を受けている地区に、その上位計画を無視して、改良整備は出来ないとの方針で、県も、鳥栖の高架が棚上げになったせいか、武雄市に事業着手を促進する様な動き。

また、この高架事業で、除去する踏切が、伊万里〜鹿島線など市全体の交通や通勤に役立つこと。

また、もし、高架区画をせずに毎年、3億円を10年30億円使って市街地整備をしても移転補償費などで大した整備はできないとも想像された。

ただ、課題も残した。議員の視察で、先進地に行くと、JR関係の鉄建公団などのゼネコンが、ほとんどの業務を受注し、地元建設業者にあまりメリットがない。投資的経費を、高架区画に使い下水道や遅れている学校の改築ができないのではとの心配。

また、8ha縮小案で、松原商店街の南側だけが区画整理になり不平等や一体的整備ができない事。

特に、市が同時期に東部開発計画を打ち出している、整合性がな

いとの批判などがあつた。

そこで、石井市長に、東部開発の一時凍結について、私もいたが、総務委員会で、異例の夕方まで協議し、市長が凍結を決定した。そこで、松原おれんじ通りも賛成を表明し、後日、川端地区も賛成に転じ反対は無くなった。

工事着手から切替へ

◎鉄道高架は、駅を中心に約3kmで、8ヶ所の踏切りを除去し、駅付近3分の1は、区画整理で用地を生み出し、両側は、県が直接買収。事業費は、180億円（高架本体140億円・側道32億円）事業期間は、H10～H19年まで

南国ビル問題

着工後は、順調に進んでいたが南国ビル問題が出て、計画では、高架は、H18年に線路を切替えて、H19年に旧線路を撤去して完成する予定で、本来ならすでに終了しているはずであった。

計画時、南国ビルについては、移転補償が、高額を予想され、対象外となっていた。しかし、前の受電設備の部分が道路にかかることから交渉難航。このまま、一部

が接続できなければ大変なことになるとの心配もあった。

ちょうど、JRが、駅南口前を議員も知らない覚書にしたがい買わせていたが、新幹線用地としてJRが使うので購入せずとも良いとの話で、その金で、南国ビルを補償し、街中広場を整備することとなり、動き出した。

今後の問題

それで、H18年より2年遅れて今20年に路線が切替わる。

高架事業は、駅の機能のコンパクト化により、予算が130億円に10億に縮小された。

区画整理は、平成23年完成が、平成25年に変更され、事業費は、84億円と南国移転関係約4億円を含む10億円高くなり変更されている。この10億円の中に、まちづくり交付金というのがあり、高架下整備などに使用している。

一方、現在、大きな問題なのが事業が20～30年もまたせ、いよいよ区画整理できる状況になったのに、市が、具体的な動きをしていない事である。一番松原や永松の地権者が知りたいのは、次どこにいつ移転するのか、であり現在の店や住宅の改造もできない事である。市は、高架が切替わらなければ、動けないとの話だが、工事はできなくても、移転計画が立てられない事はなく強弁である。

早く、地権者に、仮替地計画という移転先予定を示すべきだ。

また、市長は、春までに、整備計画を示すとの議会答弁なので、確実に実行する責任がある。

他方、市全体としては、学校改築の問題は、改造整備年次計画を立てていたのに、年度末、国の残った予算を受け、繰越して整備する型が運良く数年続き進んでいる。

一方、下水道については、区画整理をして水洗化しないのは容認できないとの国の指摘で、区画整備

のされた川端が変速的に先行しているのもこのせいである。

ただ、市の水洗化を、浄化槽を

小中学校パソコン整備

市内小中学校のパソコンが古くなったとして、498台を購入し交換する計画。費用が意外と高く、2億7千9百万円を見込む。

単純に、10万円のパソコンなら4千9百8万円と5%になると思うのだが、全学校をネットワーク化して、サーバーを一本化する為に高額になるとの話で、この型にすれば、5%程度の国庫の補助があるという。

高額事業で、逆に地元発注ができない様で、ネットワーク工事はできなくても、パソコン本体がいはいは地元へと提案するが、パソコンが固まるトラブル防止の為に、各パソコンに、ハードデスクを入れていないパソコンが必要で、市販品とは異なる仕様という。

しかし、防衛省ではないが、特殊物になれば、高額になるので、たとえば、市販パソコンから、ハードデスクをはずすなどして、地元発注ができないか、研究してもらいたい。そうすれば、今回のパソコンが、数台こわれても、地元からすぐサービスや交換ができるのでは。また、再更新する時も、特殊物では、後活用ができずに廃棄するしかないのでは。

一方、教育委員会が、高額な投資をしてどんな教育を考えているか、については、現在のパソコンが古く、立ち上がりが遅いことや、教室内の1台でも不調なら、授業が進められない事が、問題で、特に、現在、ネットワーク化し何かをする計画はなく、総務部の情報関係担当が、この際、補助メニューに乗せ整備したか得策との判断の様である。

基本に進める方針は、市設置浄化槽整備に着手すれば進むと思うが、着手が未だに不明確で残念。

ところで、入札は、プロポーザル方式といって、業者の提案内容を審査する方法で、最低金額での入札ではない。予算の約2億7千万円も、一社の見積りで算出している、今後、変わる可能性はあるとの話。私が、この問題にこだわ

るのは、他議員が、以前より教委の買うパソコンは、市販より割高との指摘があり同感だった。

一方、12月27日の西日本新聞には、福岡県の、宗像市他4町が、武雄市とほぼ同数の、463台と周辺機器を、共同で、一般入札したら、予算額1億5、800万円に対し、なんと1億0、600万円と約30%削減できたとの報道。新聞の大見出しは、「共同調達で費用3割減」「随意契約から入札に転換」として、入札方法への検討の必要性を言っている。

しかし、私が思うのは入札での30%削減でない。

半額可能?

武雄市とわずか35台の差で武雄市が、2億7、900万円。宗像市他4町、1億0、600万円と半額以下の費用でも、教育用が整備できるとの根本的な問題である。

宗像市他4町は、業者の勧める通りの高性能機器をそろえず、必要な性能に抑えたことやスケールメリットを生かし、価格を引き下げられたとの話で、文科省も評価しているとしてあった。

そうすると、武雄市も、プロポーザルする前に、本当に、学習に必要な機能と利用方法を明確に示してから、業者からの提案を受ける必要がある。市民の方もこの問題の進展に注目して欲しい。

多情報サービス

市役所本庁

市役所本庁が、公共下水道に接続する為に、500万円をかけて改造する。これまで、単独浄化槽と言う、し尿だけのもので、汲み取りより、環境負荷は多く、市民に対し、肩身のせまい状況だった。また、全体の配管をまとめると費用が高いとの試算で、公共マス3基を契約し、建物別に排水。

ハートピア武雄

ハートピア武雄（保養村内）の売却を年金健康保険福祉施設整理機構が行なうとして、H20年3月まで一般公募を行っている。募集の最低売却価格は、1億5、200万円となっている。公共の宿と一部有料老人ホームだが、市は、今回、入札には参加しない。

企業誘致

企業誘致は市長の最大の公約だが、進んでいない。今回、県が打

出した、県と市などが整備費用を1/3ずつ負担する共同整備事業に武雄市も、1ヶ所申請していると言う。新聞報道では、唐津市が45haで事業費44億円や、合併前武雄市と綱引きし、鳥栖に決った県営工業団地も、この方式に変わると言う。県の採択の決定は3月頃の見通しで、市内どの地区を県に提案しているかは、現在は公表をしないとの話。

スッポン亀を市の特産に

スッポン亀を市の特産にする可能性が出て来た。今、農村部で、「農地水環境事業」といって農家や一般住民が協力して農地を守るという国の事業がされている。その補助金を使い、稲を食い荒らす、ジャンボタニシのたまごを食べる、スッポンを河川に放流しようとの一般質問でのやり取り。旧北方町では、以前に実施したが、一定の効果があったという。ちなみにスッポン一匹の単価は千円と

12月議会私の質問

市の答弁

1	大町町との合併問題で市民の意向を確認したいとの発言で、市民アンケート等実施するのか？	アンケート等、特に考えていない。
2	武雄市統合計画を実現するに当たって具体的な、実施計画はいつ市民に公表するのか？	作成はしているし、公表もする。（調べた所、太枠での公表で各事業費は不明）
3	市長は、学童保育の2,000円有料化での収入で夜間保育を実施すると以前答弁がいつ実施？	夜間保育をしたいと意向だったが具体的には動いていない。
4	病後児保育について武雄市の次世代育成の計画では家庭への派遣型をH21年には900回実施予定だが今は0回。	H21年度ファミリーサポートセンターを設立し、実施する。
5	H13年より、国より移管を受けた里道であるが、補修は区となっていて、広く公共利用の里道は市が整備を。	これまで通り、地区で補修を。
6	まちづくり交付金10億円は新駅の周辺整備が主目的。市役所前公園や三湯物語など本来の目的以外が多く、見直しを。	今後見直しはして行く。
7	下水道使用料金は維持管理費から算出する。ならそれを下げる方法を市はどう考えているか？	今の所もち合わせていない。
8	学生のいない家庭の市民でも、市の子供の教育等には関心がある。学校だけでなく、市民とのタウンミーティングの実施を。	教育長は、実施する方向で検討。
9	学校のパソコン交換で、もっと授業以外でも使えるよう旧中古パソコンを、こわれても良いので自由解放に利用しては。	旧パソコンでなく、新パソコンの自由解放を検討。
10	行政問題専門審議会に諮問にあたって、1案でなく、複数の案を示して選んでもらう方法では。	諮問内容によって変える。

急激混乱

武雄市民病院問題を整理する

【市民病院問題混乱】

昨年末より、混乱状態にある、武雄市民病院の民間病院委託話しであるが、その原因は、市が、関係者である地元医師会や、当事者である市民病院の医師や看護師にまた市議会に事前説明もなく、行政問題専門審議会に、民間委託が一番、望ましい方法として提案した事によるもの。

また、審議をする前に、一部の事業者（福岡の和病院）とすでに面会して、利用者市民や、関係者をないがしろにした、市長の独断専行への批判である。

それについては、市長が、自ら謝罪し、関係修復を一刻も早くやってもらいたい。

私が、疑問に思うのが、一昨年は、市民病院関係者から、「市長は観光に力をいれてあり、病院運営について関心がないようだ」との心配の声も聞いた。また、私が、2年後の、市民病院の市街地移転や、大町町立病院との統合の一般質問を、黒字化を予定していたH17年度の赤字の確定した、H18年9月に、した時の答は、現在考えていない主旨の回答だった。

その様なことから、内部で、十分に検討された結論なのか疑問に思う。また、市長は国が、公立病院の見直しを自治体に求めて来ているとの説明で、昨年9月国の通達を単に従順に実施しようとしてきているのかもしれない。

医師会からの要望書

11月27日に、市長へ出された要望書のポイントを、私が要約して市民の方に伝え、内容は、大きく2つの柱になっています。

1、独立行政法人の場合

「まずは、独立行政法人での運営を希望致します。その時は、地元医師会としても、今よりさらに密接な医療連携を約束し、採算面でも協力します。」の記述。

2、民間への移譲の場合

「民間への移譲は、地域医療の崩壊をまねくことになり、会員全員が難色を示しております。」記述。

結論を単純化すると、市が打ち出した、2方策の、独立行政法人化には、賛成だが、民間移譲には反対との主旨で、ただ、反対の文字は使用されていない。また、最も悪民間委託の場合は、現在の民間病院等との診療科目の競合に配慮をお願いする。」と民間委託も内容しだいで絶対反対的な要望書ではないようである。

行政問題審議会の意見書

意見書の主旨は、経営形態は、医療専門家を入れた専門審議会、慎重に検討する。

また、速やかに実施を要望する

- 7項目があり、主なものは、
- 結核病床は不採算で廃止を
- 病院への道路の拡幅改良
- 病室の6人部屋解消
- 診療科目を市民要望で増科
- 他公立病院との合併など検討
- 佐大・看護学校との良好関係
- 近隣の民間病院等との連携

私の考え

議会も、遅ればせながら、1月に武雄市民病院問題調査特別委員会を議員15人で始動したので、すぐに引込む話では無くなった。そこで、私が、今後を整理すると、大きく2つの部分に分かれる。

【①移転問題】

立地場所が、結核療養を目的とした閑静な場所が救急に不適であり、また、1病室がせまく、新基準に対応していない。

そこで、改造が必要だが、今の病棟を改造するか、新に移転新築するか選択がある。ただ、H22年までは、国立を移譲した時に10年間は、病院として使用する事になっていてH22年までは移転できないが、建設にも2年程度はかかるので、今決めるのがベスト。ただ、新築した場合の試算が示していないので、現在判断できない。

【②経営者問題】

市の直営か、民間活力の導入かの問題で、市の提案では、独立行政法人」と言って、市が所有した病院を、理事長に権限を与え、中期目標の予算を承認するだけで、経営の弾力性や機動性があり経営効率が良いとしている。

また、民間移譲は、将来にわたり、市が赤字負担をする事がない。として、この2つの方法のどちらかを経営形態とし、コストを意識した経営を実現するとの方針。ただ、2者を比較して民間移譲が良いとしている。

私は、一番、肝心な独立行政法人の場合の医療内容や収支計画は示されてなく、具体的に、市民にとってどちらが良いのか比較できないし、民間移譲も、どういう条件で移譲するのか示さず結論だけ出している所に拙速さを感じる。その説明を市に求めて行きたい。



TAIZO写真展の光と影

市の発表によれば、TAIZO展に、約2万人が、訪れて大成功との事である。

一方、12月議会では、色々の意見が出されていた。まずは、チケット販売の件で、区長会や婦人会など各種団体で実行委員会が作られ、約1万枚のチケットがあずけられ、3、700枚を売りさばいたらいい。私の家にも、あちからも、こっちもチケットを買ってとの話があるとして、市に苦情を言ってくれとの市民からの電話。

代間 武雄市景観条例の継続審査の 原因は独断専行！

12月議会に、いわゆる景観条例が提案された。これは、市の条例で法規制をもうけ、良好な環境や景観を守ろうと言うもの。

また、この条例を基に、建築物に制限を加えたり、また、別に、屋外広告物条例を定め、カンバンや標識などの規制や統一を図る。

その景観条例が、建設委員会で継続審査となり、本会議で採決できなかった。私が知る限りでは、執行部の提出した条例が、継続審査になることはなかった。

特に、与党議員の多い中では、異例中の異例。その原因は独断専行による説明や検討不足。

もともと、樋渡市長が着任後、温泉地帯の風俗業の看板が目立ちすぎと公然と批判。また、国道34号バイパスの大型看板も、インターネット時代には不要として、他の広告看板に先に模範を示すとして、武雄市の歓迎広告塔も撤去された。

その後、看板等の規制には、法的根拠が必要とのことから、本条例提案になったと思われる。私は、以前に、温泉通り数mは

市の営業部に言うと、市でなく実行委員会がやっているとの答え。しかし、次の日、議員にチケット購入を促進していたのは、市職員で、実体は、実行委員会が市が責任ののれんダミーとも見れる。

また、市は、強制的にはされていないと言うが、他議員の指摘では、前売券購入者の5、100枚のうち、2、500枚程度は、使用されてなく、いわゆる「ジンギ」買になっていて、昔よくあった、半強制的な販売的な実体

また、武雄温泉の観光看板も、ルールを決めてから撤去して良いのでは、との提案もしていたが、その時から、心配もしていた。

一方、市長が宣伝する、がばいはあちゃんの看板は、あちらこちらに大量に設置し、わがよかごとしよんさーとの声も聞いた。

一方、委員会では、温泉通り周辺が建物の高さを、20mに制限するとの案に対し、旅館や区から説明不足で、また資産価値に影響をあたえの事なのに、一方向的として、反対の申入れが出されたりした。

また、市の20m規制の理由が、楼門を見えやすくと話だが、通りからは、10mも30mもそう変化がないなど、杓子定規的で説得性がないとの指摘もある。一方、山内の黒髪山周辺は、10mだが、もつ

と色の規制などしなければ本来の意味はなさないなど、具体的な効果に対しての検討不足が目立った。市長と、都市計画課が、どこを

との指摘があった。

また、来場者を、水増ししたいのか、学校の年間計画がすでに組んであるにもかかわらず、市内小中学校にバスを用意し、予定を変更して、約1、500人を見学させたとの事で、教育現場を軽視し、教育の独立性を犯すとの指摘も。

また、武雄市を訪問した、東京からの戦場カメラマンの宮崎氏の飛行機代等の交通費などは、こちらから出して来てもらっていた。

こんな、実体を聞く時、偽装までして、有名になりたい市民はいないので。

作成後記と今後のプラン

平成20年の目標としては、前記のように、公共下水道／m²180円の使用料金を、農排と同じ、m²150円に統一し、不公平解消に努力する。一方、3月には、水洗化未整備地区が、下水道マップの見直しで、自分の家が、どの方式になるのか明確になる。

また、市長具約の県内一高い、固定資産税の見直しが予定されているが、現在の県内一高い1・5%を、国の標準税率1・4%に下げられるのか、また今年、任期の切れる、副市長が、2人も必要か、など、市民の立場で努力して行くつもりです。

また、一方、西部地区の新ごみ処理場建設も、10年後ですが、一番重要な用地や基本計画はH20年度です。しっかりと状況報告をして行くつもりです。

一方、今年は、市職員の退職が15人もいて、内、部長3人、課長4人と、合併以来、優秀な人材が辞めて行っている状況ですが、市民の視点でおもねらず頑張ります。